

1. 企画を書く

「誰に」と「何を伝えるか」から先に書きます。撮る場面を決めるのは、そのあとです。空いているところは、あとから書き足して構いません。

作品名

誰に見てもらう？

何を伝える？

見終わった人に、何が分かってほしい？

どこで見せる？（自分の練習用でも可）

使う道具（スマホ／固定する台／イヤホンなど）

完成の条件（長さ・伝わってほしいこと）

確認すること（場所・出演・素材・音楽の使用条件）

自分が担当する範囲

2. 撮影表と完成チェックを書く

1ページ目で決めた内容を、6つの場面に分けます。「長さ」は編集したあとの映像の長さで、作業にかかる時間ではありません。

順番	撮るもの	画の大きさ	長さ	ねらい
1				
2				
3				
4				
5				
6				
合計	秒			

完成チェック 書き出したあと、編集画面ではない端末で再生して確かめる

- ☐ 最初の4秒で、何の映像が分かる
- ☐ 引きと寄りが混ざっていて、場所と手元の両方が分かる
- ☐ 作業の順番を追える
- ☐ 字幕を読み終える時間がある
- ☐ 作業音が聞こえる。音楽が作業音や声を消していない
- ☐ 黒い画面や、不要な場面が残っていない
- ☐ 音を消しても、何をしている映像かが伝わる

「伝わった？」の聞き方 感想ではなく、見えたことを聞く

「どうだった？」ではなく → 「何をする映像に見えた？」

「カッコよかった？」ではなく → 「途中で分からなくなったところは？」

返ってきた答え／次の1本で直すこと

3. 企画の記入例

※このページは練習用の記入例です。架空の企画をもとに書いています。そのまま真似せず、自分が説明できる題材に置き換えてください。

作品名

コーヒーをいれる準備と片づけ

誰に見てもらう？

家でコーヒーをいれてみたい人

何を伝える？

道具を出してから片づけるまでの流れ

見終わった人に、何が分かってほしい？

必要な道具と、作業の順番。特別な準備がなくても始められること。

おいしいいれ方のレシピではなく、流れを伝える映像だということ。

どこで見せる？（自分の練習用でも可）

まず自分。そのあと感想を聞ける知人に1人

使う道具（スマホ／固定する台／イヤホンなど）

スマートフォン、本を重ねた台、イヤホン

完成の条件（長さ・伝わってほしいこと）

45秒前後。最初の4秒で何の映像か分かる。

別の端末で見ても字幕が読めて、作業音が聞こえる。

確認すること（場所・出演・素材・音楽の使用条件）

器具の説明書の手順。熱いお湯のそばではスマホを手に持たない。

背景に個人情報が見えないか。公開するなら音楽の使用条件。

自分が担当する範囲

企画・撮影・編集

4. 撮影表と振り返りの記入例

※このページは練習用の記入例です。架空の企画をもとに書いています。45秒は今回の構成例の長さで、守らなければいけない決まりではありません。

順番	撮るもの	画の大きさ	長さ	ねらい
1	できあがったカップ	寄り	4秒	何の映像かを示す
2	道具を並べる	引き	6秒	場所と準備を見せる
3	道具を準備する手元	寄り	7秒	動作を伝える
4	お湯を注ぐ手元	中～寄り	10秒	作業音を生かす
5	片づける	中	10秒	最後までの流れを示す
6	整った机とカップ	引き	8秒	終わりを作る
合計 45秒（6カット）				

完成チェックの記入例

- ☒ 最初の4秒で、何の映像が分かる
- ☐ 引きと寄りが混ざっていて、場所と手元の両方が分かる
- ☒ 作業の順番を追える
- ☒ 字幕を読み終える時間がある
- ☒ 作業音が聞こえる。音楽が作業音や声を消していない
- ☒ 黒い画面や、不要な場面が残っていない
- ☐ 音を消しても、何をしている映像かが伝わる

※ 2番目と7番目が未達。机全体の引きを1カット足して直す。

振り返りの記入例 見せたあと、その日のうちに書く

伝わったこと

道具を出して片づけるまでの流れは伝わった。冒頭のカップで、何の映像かも伝わった。

伝わりにくかったこと

手元の寄りが続く場面で、どこで作業しているか分かりにくいと言われた。

次の1本で試したいこと

机全体の引きをもう1カット足す。音楽は入れず、作業音だけで通してみる。